

編集後記

春は桜梅桃李の花あり，秋は紅蘭紫菊の花あり，皆これ錦繡の色，酷烈の匂なり——とは，古今著聞集に記された麗句である。平成 28 年の末，洋蘭の咲き誇る季節に編集委員長を拝命し，以来約 1 年にわたって編集作業に携わってきた。

論稿を受け付けたのはまさに桜梅桃李の候で，本年は昨年と同数の 16 本の投稿があった。厳正な審査の結果，2 本の論稿が掲載の運びとなったが，去年に比べ掲載論稿の数は半分に減じた。

単純な数の上にも表れているように，本年の審査は例年にもまして厳格なものであったように思う。その理由は，妥協を許さずに真摯に論稿に向き合った編集委員の努力もさることながら，投稿論稿の質が全体的に高かったがゆえに，選別のためには勢い見る目を厳しくせざるを得なかったことにある。大方の論稿に評価すべきところがあり落選とするに忍びなく，夏の審査会議ではいずれ菖蒲か杜若と編集委員一同大いに頭を悩ませた。その結果選び抜かれた 2 本の論稿は，秋を誇る紅色の蘭と紫色の菊のごとくに並び立って本誌を彩っている。厳選した質の高い論稿を世に送り出せることは，今期編集委員長を務めた身として大変に誇らしく大きな喜びである。

実は，今期の編集委員会発足当時は，このように厳しい審査を行うことになるとは予期していなかった。むしろ近年における投稿数の頭打ちの原因として掲載に到るまでのハードルの高さが指摘されていたために，ローレビューの発展継続のためには間口をより広く開放することが必要なのではないかとの議論もされていた。それが蓋を開けてみれば掲載論稿を含め質の高い投稿論稿に恵まれ，例年同様審査にいささかも手心を加える余地がなかったことは嬉しい誤算であった。

さらに，本学の先生方よりお寄せいただいた 3 論稿もまた本誌の誇る華であり，特集も同様である。寄稿論稿は，カラフルな花束のようにそれぞれ異なるテーマについて興味深い議論を展開してくださった。一方で今期の特集は留学及び海外ロースクール事情を取り上げ，国境を越えた取り組みにフォーカスすることとなった。それと呼応するように今期の投稿論稿は，掲載に至らなかった論稿も含め，大半が国外の先行研究をも丁寧に参照して議論を組み立てるものであった。比較法的考察が掲載の要件ということではないが，法曹の国際化は今日の重要な課題であり，本学法科大学院も「国際的分野でも活躍しうる」人材の養成を教育理念に掲げる。今期の本誌はまさにその成果を体現するものと言えよう。また編集作業中，海外の学生や研究者からも投稿の希望が複数寄せられた。残念ながら規約に定めた投稿資格の関係上彼らの期待に沿うことはできなかったが，今後の本誌の目指すところについて深く考える契機となった。

東京大学法科大学院ローレビューは今年 12 周年の節目であり，創刊より干支が一巡した。今後は国境を越え一回りも二回りも発展していくであろうという期待を抱いて今期の大団円を迎えられることに万感胸に迫る思いである。第 12 巻の発刊に例年にもましてご尽力いただいた株式会社商事法務の方々，本学の先生方，特集企画にご協力いただいた方々には心より感謝の意を申し上げたい。そして何より，投稿者及び寄稿者の皆様が日頃の研究を花開かせ錦繡を重ねた論稿をお寄せくださったおかげで，今年も胡蝶蘭の季節に華を添えることができた。薫り高い花束のごとき第 12 巻を手にして，本誌に百花繚乱の遠からぬことを確信しつつ，金木犀の香の中に筆を擱く。

東京大学法科大学院ローレビュー第 12 期編集委員長 矢ヶ崎 悠

東京大学法科大学院ローレビュー Vol.12 2017 年 11 月発行 The University of Tokyo Law Review

編集・発行 東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻内

E-mail : sl-lr@j.u-tokyo.ac.jp

http://www.slrr.j.u-tokyo.ac.jp/



※東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会へのご連絡は，E-mailにてお願いいたします。

※法律で認められた場合をのぞき，本誌からのコピーを禁じます。